

倫理法人会「万人幸福の葉 17 カ条」に学ぶ

行動 1. 今日是最良の一日、今は無二の好機 【日々好日】

松下幸之助は、自分の仕事生活を振り返り、長期計画も考えたが、ほとんどは目の前の問題に全力投球で取り組んでいたと語っている。人が考えられるのは、せいぜい目の前にある最も大きな一つの問題だけである。それを解決したら次の問題に取り組んでいく。そうしているうちに会社は大きくなっていったという。

・私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる・・・
私は、昨日のことを忘れることにしたが、
同時に、明日のことも忘れることにしよう・・・
今日この日が、私にとってのすべてであり、
そして、今、刻まれているこの時が
私にとっての「永遠」なのである (p 116)

「地上最強の商人」オグ・マンディーノ

【私の評価】★★★★★ (98 点)

信念 2. 苦難は幸福の門 【苦難福門】

起業して成功した人は、こんなに苦勞するのがわかっていたら、起業しなかったと感じるらしい。しかしまた、そうした苦勞が自分を成長させたのも事実なのである。もしあなたが今、苦しいとすれば、「ああ、自分は成長しているのだな」と思えば、少しは気持ちが悪くなるのではないだろうか。

一般的に苦しさからは逃げるのが一番である。あえてピンチに飛び込む必要はない。しかし、逃げられないのであれば、戦うしかない。戦えば自分は強くなるし、強くならなければ生き残れない。ピンチはチャンスでもあるのである。

・「苦しい」は、成長している瞬間です。(p59)

「苦しい」が「楽しい」に変わる本」樺沢 紫苑

【私の評価】★★★★★ (92 点)

引寄 3. 運命は自らまねき、境遇は自ら造る 【運命自招】

私が本を読み始めたきっかけは、「7つの習慣」を読んだことである。「大切なことを大切にすることが大切である」などと当たり前のことが書いてあるだけの本なのだが、なぜか心に引っかかるものがあった。

その「7つの習慣」の最初の習慣「主体性を発揮する」の最初のページに「問題は自分の外にあると考えるならば、その考えこそが問題である」とある。ショックを受けた。すべては自分が選択した結果であるという当たり前のことが目の前にあったのである。

「主体性を発揮する」

「目的を持って始める」

「重要事項を優先する」

「WinWinを考える」

「理解してから理解される」

「相乗効果を発揮する」

「刃を研ぐ」

「7つの習慣」 スティーブン・R・コヴィ

【私の評価】 ★★★★★ (97点)

引寄 4. 人は鏡、万象はわが師 【万象我師】

世の中には成功する人と、失敗する人がいる。成功する人はどこに行っても成功する。例えば、高校スポーツなら有名監督が学校を移ると、その監督が去った学校は落ち目になり、監督が移った高校は名門となる。その差がどこにあるのかといえば、よくわからない。

しかし反対に、自分がスポーツの監督で選手の成績が悪いとしたならば、それは生徒の才能がないのではなく、自分の指導方法が悪いのである。そうした事実が分かれば、指導方法の本を読むこともできるし、有名監督に指導のコツを教えてもらいに行くこともできるだろう。すべての結果としての環境は、自分が呼び寄せているのである。

- ・ 自らを磨いて鍛え直し、
大きな愛情を持って指導を行う。
これに意気を感じた部下が期待に
応えてくれるのである。
自分が投げた力以上のボールが
返ってくることはない (p 41)

「人を動かす人」になれ!すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」 永守 重信

【私の評価】 ★★★★★ (90点)

引寄 5. 夫婦は一对の反射鏡 【夫婦対鏡】

ユダヤ人は合理的である。合理的であるがゆえに、金儲けがうまい。しかし金は大切だが、そもそも家族が最も大切であることをユダヤ人は知っている。死ぬときに金を持って天国へは行けないのである。死ぬ瞬間を看取ってくれる家族がいるほうが重要ではないだろうか。だから金も大事だし、家族も大事。ユダヤ人にとって、カネのために家族を犠牲にするのは合理的な判断とは言えないのである。

ユダヤ商法の「十戒」

- 第1戒 正直であれ
- 第2戒 好機をとらえろ
- 第3戒 生涯にわたって学べ
- 第4戒 時間を貴べ
- 第5戒 笑え
- 第6戒 使命感を持て
- 第7戒 過去から学べ
- 第8戒 話す倍聞け
- 第9戒 弱者に施せ
- 第10戒 家族を大切にせよ

「ユダヤ商法」マーヴィン・トケイヤー

【私の評価】★★★★★ (92点)

引寄 6. 子は親の心を実演する名優である 【子女名優】

子どもが成長していく中で、親の影響は非常に大きいものがある。子どもは親を見て育ち、親の真似をし、親の考え方を学んでいく。そういう意味で、子どもがどうあるかは親の責任であり、同じように部下がどうあるかは上司の責任なのであろう。

- ・カレブにお手本を示して導くのは父親だ。
カレブは父親をよく見て、していることをすべて真似る。
カレブは父親のようになる・・・
ああ、それは・・・とても怖いことですね (p185)

「希望をはこぶ人」アンディ・アンドルーズ

【私の評価】★★★★★ (94点)

引寄 7. 肉体は精神の象徴、病気は生活の赤信号 【疾病信号】

病気には心の問題からくるものと、身体の問題からくるものがあるという。特に心の問題は特段に身体に影響を与えることが知られている。例えば、仕事がうまくいかないと、イライラして寝不足になり、また人間関係が悪くなり悪循環は続くのである。

では、その悪循環から抜け出すには、どうすれば良いのか。それには心を変える方法と、行動を変える方法がある。簡単なのは、行動を変えることである。なぜなら、心を変えるのはわかっているようで難しいが、行動は動けばいいからだ。

たとえば、うつの方は姿勢が悪くなり、声が小さくなり、とぼとぼ歩き、食も小さい。であれば、姿勢を良くし、大きな声を出し、どうどうと歩き、ステーキでも食べてみよう。心の状態はともかくとして、そんな“うつ”の人はいないし、周りから見ている人は、うつとは気づかないであろう。そうしているうちに、うつは治るのである。

弱者は自分の思いに行動を支配され、
強者は自分の思いを行動で支配する（p 315）

「地上最強の商人」オグ・マンディーノ

【私の評価】★★★★★（98点）

行動 8. 明朗は健康の父、愛和は幸福の母 【明朗愛和】

顔に×ができている人と、顔に○ができている人がいる。顔に×ができている人は、目が吊り上がり、口がへの字になっている。昔の上司にそういう人がいた。人相が悪いことこのうえない。

一方、顔に○ができている人は、目じりが下がり、口元が上っている。どちらが良いかといえば、もちろん顔に○がある人であろう。だれも顔が×の人とは付き合いたいとは思わないであろう。

同じように口から毒のような言葉を吐く人がいる。言葉で人を傷つけるのは簡単である。いつも怒っていればいい。

一方、いつも良い言葉を発する人もいる。人を励まし、感謝を伝え、自己重要感を満たしてくれる。どちらが良いかといえば、もちろん良い言葉を発する人であろう。

文豪ゲーテもこういっています。

「人間の最大の罪は、不機嫌である」（p 114）

「運命の流れを変える！ しあわせの「スイッチ」ひすいこたろう、ひたかみひろ

【私の評価】★★★★★（90点）

行動9. 約束を違えれば、己の幸を捨て他人の福を奪う 【破約失福】

ビジネスとは信頼だという。信頼がなければ、仕事はできない。それはどこの国であっても同じビジネス成功のための真理である。商品であれば、ブランドが信頼である。人はそのブランドを信じて買うのである。信じられなくなれば、売れなくなるのは当然なのである。

そして、もっとも難しく影響が大きいのは、自分との約束であろう。自分との約束を破ってもだれも批判はしないが、自分は知っている。自分が一番自分を知っているのである。自分との約束を守ることが、最も自分の自己重要感を高めてくれる。

細かい約束をきちんと守ること。
大きい約束を守るのは当たり前。
小さい約束を相手の立場に立って誠実に守るかどうかで、
その人の信頼性が決まる。(p119)

「客家大富豪 18 の金言」甘粕 正

【私の評価】★★★★★ (97 点)

行動10. 働きは最上の喜び 【勤労歓喜】

仕事をしているときは、仕事のグチ、言い訳、不満を言いながら、こんな会社いつでも辞めてやる！などと言っていた人が定年退職したら、めっきり元気がなくなってしまうらしい。仕事が無くなってすっきりした！と思っても、数カ月もするとやる事がなくなって暇な時間を持て余してしまうのである。

仕事をしているときは、会社に居場所があるし、自分の役割、人間関係がある。ところが退職すると、そのすべてが無くなってしまうのである。わかっているようで、実際に退職してみるとショックを受けるのだ。

ただ流されて働くのはいかがなものかと思うが、自分の生き方として自己実現の手段として仕事を確保しておくことは、非常に重要である。そのために、どこで、いつまで働くのか、決めておきたい。退職してから、こんなはずではなかった、とは言いたくないものである。

・「定年だから」働くのをやめるなんて、
もったいない！・・・
生涯学び、臨終で卒業。(p1)

「私はやった、あなたもできる！定年後に働く、うれしい毎日！」上田研二

【私の評価】★★★★☆ (81 点)

引寄 11. 物はこれを生かす人に集まる 【万物生々】

「引き寄せの法則」とは、今の自分にぴったりの状況やモノや人が、自分に集まってくるという考え方である。つまり、自分にぴったりの会社で働いているのであり、自分にぴったりの奥さんがいるということ。

したがって、現状に不満があるのならば、その原因は外にあるのではなく、自分自身にある。だから、自分自身を変えなければ何も変わらないといのだ。

・人は自分が欲するものではなく、自分という存在に見合ったものを引き寄せる (p 44)

「原因と結果の 36 の法則」 ジェームズ・アレン

【私の評価】★★★★☆ (80 点)

信念 12. 得るは捨つるにあり 【捨我得全】

自分を捨てた人ほど強いものはない。自分の欲を捨てているから、おだてられても、カネを積まれても、異性をあてがわれても、動かない。自分を捨てた人は、ただ自分の道を進んでいくことができるから、成功するのである。

・第二の会社に移る際、副社長（補佐役）としての任務を果たすためにはどうあるべきかを考えてみた。・・・手帳に「自分を捨てきれない者は会社を捨てるか自分が捨てられる」と書いたのもそのころである。(p 5)

「将の器 補佐役の器」井原 隆一

【私の評価】★★★★☆ (86 点)

行動 13. 本を忘れず、末を乱さず 【反始慎終】

ここで言う「本」とは、読書のことではない。本（もと）とは自分の祖先、両親のことである。自分はどのように生まれてきたのか、祖先は何を思い、どう生きてきたのか。そうした自分の自出、背景を知ることができると、なぜか道が開けていくという。祖先が道を示してくれるのであろうか。

・家系分析で一番大事なことは、祖先の徳を讃え、感謝し、受け継ぐ努力をすることである (p 70)

「なぜ、うまくいっている会社の経営者はご先祖を大切にするのか」天明茂

【私の評価】★★★★★ (91点)

信念14. 希望は心の太陽である 【心即太陽】

世の中には、自分で燃えることのできる人、他人から影響を受けて燃える人、そして燃えない人がいるという。自分の志をかなえるためには、やはり自燃できる人でなければならないのであろう。

なぜなら、世の中には心の火を消そうとする人が多いからである。成功までには時間がかかるので、途中で火が消えそうになることがあるからである。そうしたときに、いかに心の火を消さないようにするのか。

松下幸之助は、成功するまで続ければ成功する、と言った。うまくいかなければ、別の方法を考えればよい。万策尽きたと思ったら、ちょっと時間を置いてみるとよい。道は必ず開けているのである。

・ビッグ・シンカーは、状況に左右されない。
気分やお金では動かない。彼らは情熱で動く。・・・
自分が本当に好きで、情熱を持ってやっていたら、
お金は自然についてくることを知っているのだ。(p 358)

「THE ANSWER(アンサー)」ジョン・アサラフ、マレー・スミス

【私の評価】★★★★★ (94点)

信念15. 信ずれば成り、憂えれば崩れる 【信成万事】

たった一人の信念を持った人の行動から、大企業が作られる。しかしまた、たった一人の判断の間違いが、大企業でさえ潰してしまう。だから経営判断にあたっては、できるだけ情報を集め、助言を集めつつ、決断するのは自分一人なのである。

だから決断したら、絶対にブレない。ブレないだけ考えて決断するという。足を引っ張る人もいるだろう。状況が変わることもあるだろう。そうしたことのブレないだけ、考え抜き、あらゆる状況を織り込んだうえで決断すべきなのである。

・決断・・・多くの人が失敗してしまったのは、
善人ではあるが無知な人たちによって
自信を喪失させられたからである (p 246)

「思考は現実化する」ナポレオン・ヒル

【私の評価】★★★★★ (92点)

信念 16. 己を尊び人に及ぼす 【尊己及人】

自分の人生は最も大切なものである。どんなときも自分のために動いてくれるのは、唯一自分だけである。だから周囲の人との人間関係も大切にす。それは自分の人生を良くするためである。

しかし時には、実際には自分に失礼なことをする人や、失礼なことを言ってくる人が出てくることもある。人を舐めているのである。そうした人には、覚悟を持って直ちに釘を刺しておいたほうがいい。放っておくと、そうした人が集まってきたりする。舐められているのである。ヤクザの世界でも、舐められたら生きていけないのである。

自分を大切にするためにも、自分の尊厳を保ったうえで人間関係は大切にす。一方で、自分を軽く見る人がいれば、訂正を求め。そのバランスが大切なのであろう。

- ・ 部下の失礼な物言いには、
「そういう言い方はやめなさい」
と言う (p 68)

「感情を自在にコントロールする極意」潮風 洋介

【私の評価】★★★★★ (90 点)

行動 17. 人生は神の演劇、その主役は己自身である 【人生神劇】

自分は自分の人生というドラマの主人公であり、さらには脚本家であり、金を管理するディレクターでもある。なぜなら、すべてを自分で決めることができるからである。だとすれば、どういったドラマにするのか、どういった冒険をするのか、脚本を書くがいい。そしてその脚本は、ほとんどが実現するのだから。

ただ、気をつけるべきは、自分には自分なりの特徴があること。その自分の特徴を最大限生かして使うことが人生の成功である。この世に自分色の成功の花を咲かせよう！自分が人生の主人公なのだから。

- ・ 主人公である「自分」の人生をハッピーエンドに終わらせる
ためには、すぐれた脚本を書く必要があると思っています・・・
自分の人生に「予約」を入れていけばいいのです (p128)

「なぜか「仕事が速い」人の習慣」椋木 修三

【私の評価】★★★★☆ (84 点)